



愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学附属中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

平成 27 年秋季版

(平成 27 年 11 月 27 日)

吉村選手 リオ五輪メンバー



リオ五輪メンバーに選出され喜びと決意を語る吉村選手（ニッタクニュース提供）

「メダル獲得に貢献したい」

大学男子卓球部の吉村真晴選手（経営学科 4 年）は来年 8 月にブラジルで開かれるリオデジャネイロ五輪の男子団体のメンバーに選出されました。9 月 19 日に開かれた日本卓球協会の理事会で決まりました。吉村選手の世界ランキングは現在日本人男子として 3 位、団体戦に出場の予定です。本学の卓球部出身者では 2004 年のアテネ五輪に出場した鬼頭明・本学男子卓球部監督以来 2 人目となります。吉村選手は「日本男子初となるメダル獲得に貢献したい」と意欲を見せ、鬼頭監督も「リオオリンピックでは良い準備をして大いに暴れてほしいですね」とエールを送っています。

吉村選手は野田学園高校（山口県）3 年時に全日本選手権で優勝、2012 年に本学へ入学しました。今年 5 月に中国・蘇州で開かれた世界卓球選手権では石川佳純選手（全農）とペアを組み混合ダブルスで銀メダルを獲得しました。その後、世界各地の大会を転戦し、スペインオープン優勝、ジャパンオープン準優勝など好成績を残し、急速にランキングを上げていました＝関連 3 面。

団体戦出場へ

卓球世界ランキング 日本人 3 位

「からくり鉄人」参上

大学の「みらい工房物造りクラブ」が取り組んでいる「からくり鉄人」が 10 月 10 日からの大学祭に登場しました。同クラブは平成 25 年度に発足したばかり。顧問の森豪教授（エクステンションセンター長）の提案で、2 年生が中心になり本学のキャラクターである鉄人の「からくり人形版」に挑戦、2 年余りかけて制作しました。九代玉屋庄兵衛・客員教授の指導を受けた高さ約 2 メートルの力作。紐を操作することで顔を左右に回し、両腕を上げ下げします。両手も動くようにして、ジャンケンもできるのが特徴です。



大学祭で披露された、みらい工房物造りクラブの学生たちによる「からくり鉄人」。

名電高校が部活動宣言

名電高校は 7 月 18 日の終業式の席上、部活動宣言をしました。学園創立以来、「誠実・勤勉」の校訓の下、スポーツを通じて心身を鍛え正しい生き方を学ぶためにスポーツが奨励され、部活動は学園の伝統となり、多くの部が全国を舞台に優秀な成績を収めてきました。学園創立から 100 年を超えたのを機に、運動、文科系の 36 すべての部活動が原点に立ち返り、その取り組み姿勢を改めて明確にし、生徒一人ひとりが胸に刻むものです＝関連 8 面。

大学、附属中卓球部の全国優勝祝う



盛大に開かれた卓球部の優勝祝賀会

愛知工業大学の男子卓球部、愛知工業大学附属中学校の卓球部がそれぞれ夏の全国大会で優勝、10月11日、名古屋電気学園、同クラブ活動後援会、大学卓球部鉦和会による祝賀会が名古屋ガーデンパレスで関係者約120人が出席して開かれました。

五輪へ 夢つなぐ



祝賀会で挨拶する
後藤淳理事長

大学男子卓球部は7月19日に愛媛県武道館で行われた第85回全日本大学総合選手権大会（インカレ）団体の部決勝で早稲田大学と対戦、3-2で逆転勝ちし2年ぶり6度目の優勝を果たしました。

附属中卓球部は宮城県で8月23日に行われた第46回全国中学校卓球大会団体戦決勝で、明豊中学（大分）と対戦、3-0のストレート勝ちを収め、全中3連覇、通算9回目の優勝を果たしました。春の選抜も3連覇しており、合わせると全国大会6連勝となりました。

このほか高校卓球部はインターハイ個人戦男子ダブルスで松山祐季選手（2年）と木造勇人選手（1年）のペアが優勝しました。団体戦は惜しくも3位でした。

祝賀会で挨拶した後藤淳理事長は学園の卓球の歴史にも触れながら「若い時代に何かに打ち込むことは生涯の宝となります。卓球に打ち込み頑張っている選手、指導者に敬意を表したい。大学の吉村君は世界卓球で準優勝、リオ五輪にも選ばれた。中学生はここ数年力をつけている。この場から東京オリンピックに出られるよう今後の頑張りに期待します」と祝福、後援会の辻本昌孝副会長も「中高大と素晴らしい成績を収められたのも先輩たちが夢を持って応援してきた成果。これからはしっかり応援していきたい」と祝辞を述べました。



祝辞を述べる
辻本昌孝副会長

「1年生を中心に考える」

夏3連覇となりましたが、毎回選手に「このチームで優勝を目指すのは初めてだ！」と話をして、大会の予選が始まります。4年前にメンタルの先生にお世話になるようになり、春夏の全国大会前には必ず先生のお話を聞きに奈良へ行っています。今回のチーム構成は半分が1年生のため、初出場する中学校の全国大会は少なからずプレッシャーみたいなものを感じると思い、2、3年生には復習となりますが、1年生中心に考え方を先生から教わりました。

その甲斐あって決勝では見事な活躍を見せてくれました。他にも、本来試合に出場予定の選手の調子が上がらなかったため、急遽出場した2年生の中村が準決勝・決勝と素晴らしい活躍をしたのは優勝の大きな要因です。「いつ出ても良いように、準備万端にしておいて」の声がけに、やるべきことをやった中村の取り組みは、日頃の行いを感じました。団体優勝した夜に、電気治療の為他の選手と部屋で3人になりました。その時、中村から「今日は僕をなぜ使ったのですか？」と質問を受けました。それぐらい、予選リーグから全く出番の機会は無かったのです。理由は、団体準決勝前に個人戦を2回戦まで行いましたが、そこでのパフォーマンスが良かったからです。

附属中卓球部・真田浩二監督

1、2年生の活躍は次の春に大きく繋がりました。3年生も大事な場面では、貴重なポイントを上げ、メンバーに入れなかった選手も素晴らしいサポートをしてくれ、応援団長を始めとする応援団も一致団結した力を見せてくれ、皆で勝ち取ることが出来た優勝です。

昔から縁のある方が、北海道から代表で出場している蘭越中学校のコーチをされています。大会前には「全国の舞台で対戦したいですね」と話をしていました。決勝トーナメント1回戦で対戦することになり、試合後に「後は応援させてもらうよ」と言ってくれたとおり、準決勝・決勝は、蘭越の監督・コーチ・選手そして保護者達の素晴らしい応援も私達の大きな力となりました。

毎回思いですが、たくさんの力で最後まで諦めず戦うことの重要性を大会を通じて学びます。多くの方々に感謝です。ありがとうございました。



真田浩二監督



全国優勝し、祝福を受ける附属中卓球部（左側）と大学男子卓球部の選手たち

クラブ活動後援会も激励

祝賀会の席上、大学男子卓球部、附属中卓球部、高校の松山選手と木造選手に対して学園表彰が行われ、併せて後援会からも激励が贈られました。



鬼頭監督に激励を手渡す辻本副会長（左）

乾杯で稲垣慎二学園理事が「大学男子が優勝、女子がベスト8、高校が3位、そして中学が優勝と、総合すれば名古屋電気学園が日本で1位だろうと思います。設置する4つの学校も益々元気になるように祈念します」との発声。両監督の優勝報告があり、最後に後藤泰之学長が「中高大そろって総合優勝できなかったのは非常に残念ですが、次こそ選手たちの頑張りに期待したい」と謝辞を述べました。



祝賀会で謝辞を述べる後藤泰之学長

「ポイント」はチームワーク

大学男子卓球部・鬼頭明監督

「台風にもかかわらず多くの方が応援にかけつけてくれました。優勝できたポイントの一番はチームワーク、まとまりでした。インカレを迎えるにあたって私が心配していたのは4月に新チームになってからインカレまで、主力メンバーが海外遠征、日本代表合宿等でいないことが多く、私自身も日本代表コーチとしての活動が多く、全員がそろって練習することがほとんど出来なかったことです。そんな中で、各自やることは違ってもインカレ優勝への想いを一つに、やるべきことをやり、運を引き寄せられるよう行動をしようと話をしてきました。まさに思い描いた通りの結果となりました。藤村選手ら皆がラストまでタスキをつないでチームの総力を挙げての全国制覇だったと思います。来年も苦しい試合になるとは思いますが、連覇を目指して頑張っていきます」



鬼頭明監督

リオ五輪メンバー 吉村選手

2016 リオ五輪出場を決めた大学男子卓球部の吉村真晴選手は喜びと決意を語りました。吉村選手は「今回、リオデジャネイロオリンピックの代表になることができ非常に嬉しく思います。私にとって新たな卓球生活がスタートしますが、選手としての強さはもちろん、この学園で培った人間力を活かしていきたいと思っています。あの大舞台で戦えることへの楽しみが大きくなっている中、体調管理には留意しベストコンディションで臨めるようにしていきます。これからも期待してください」とコメントしました。

また東京都内での取材に対し「最高の準備をして本番を迎えたいと思います。ダブルスの起用があると思うので、しっかり練習をして、経験を積みたいと思います。シングルスでは、ここ最近自分の良い時、悪い時がわかるようになってきたので、良い時をキープできるように意識の高い練習をして準備したいと思います。団体戦でメダルを獲得することが目標で、初めてで緊張すると思いますが、初めてのチャンスを活かし、日本男子初となるメダル獲得に貢献したいです」とも語りました(ニッタクニュース提供)。「リオで大いに暴れてほしい」

一方、鬼頭明監督も「吉村真晴がリオオリンピック代表内定したことは本当に嬉しく思います。本人の努力はもちろんのこと、名古屋電気学園のバックアップやスポンサー、たくさんの方々のご指導があったからだと思います。この場を借りて感謝申し上げます。吉村はこの1年間で急速に力を着けました。ちょうど1年前の世界ランキングは106位でしたが、現在は18位まで上げています。まだまだ伸び代はあり、トップ10に入る力はあると思います。リオオリンピックでは良い準備をして大いに暴れてほしいですね」と語りました。

世界ランキング 106位から18位に急伸

大学生の主な対外競技成績

(第1報、6月17日学生委員会資料)

卓球部

- ▼第15回百万石オープン卓球大会 4/18～4/19 男子団体3位Aチーム、Bチーム
女子団体3位Aチーム 男子シングルス優勝吉村和弘(1年)
- ▼ITTFワールドツアークロアチアオープン 5/19～5/23 男子シングルス優勝吉村真晴(4年)
- ▼平成27年度東海学生卓球新人大会 5/6 男子ダブルス優勝吉村和弘・松下大星(1年)ペア
女子ダブルス優勝 中畑夏海(1年)・野方奈摘(1年)ペア 男子シングルス優勝吉村和弘
第2位松下大星 女子シングルス優勝 中畑夏海 第2位 野方奈摘
- ▼平成27年度東海学生卓球春季リーグ戦 5/9～5/10 男子団体優勝 女子団体第3位
- ▼ITTFワールドツアーベラルーシオープン 5/11～5/19 男子シングルスベスト16 吉村和弘
- ▼平成27年度前期日本卓球リーグ広島大会 6/10～6/14 男子団体優勝

陸上競技部

- ▼東海学生陸上競技春季大会 4/12 男子1500m第8位唐澤研太(2年)
- ▼第81回東海学生陸上競技対校選手権大会 5/15～5/17 男子10000m第6位加藤慧(4年) 男子
5000m第2位唐澤研太 男子OP5000m優勝石川竜治(3年)

フェンシング部

- ▼第65回関西学生フェンシングリーグ戦男子団体フルーレの部 4/11～4/12 団体第4位

硬式野球部

- ▼平成27年度愛知大学野球春季リーグ戦 4/4～5/28 2部Bリーグ第2位

ゴルフ部

- ▼中部学生ゴルフ4月定例会 4/10 男子個人第6位岩崎成(4年)
- ▼第53回中日杯争奪中部学生ゴルフ選手権競技 4/14～4/15 男子個人第2位河合和真(1年)
- ▼第36回東海テレビ杯争奪中部学生ゴルフ選手権 5/12～5/13 男子個人優勝河合和真
- ▼中部学生ゴルフ春季1・2部大学対抗戦 5/19～5/20 男子団体第3位
- ▼中部学生ゴルフ6月定例会 5/25 男子個人第3位服部真浩(1年)

バスケットボール部

- ▼第3回愛知学生バスケットボール選手権大会兼第53回東海学生バスケットボール大会愛知大会
4/11～4/29 男子団体第6位
- ▼第53回東海学生バスケットボール大会 5/3～5/6 男子団体ベスト8

空手道部

- ▼平成27年度春季東海地区大学空手道選手権大会 5/31 男子個人1回戦敗退3名 女子個人3回
戦敗退十朱 七海(4年)

硬式テニス部

- ▼平成27年度第65回東海学生春季テニストーナメント大会 4/11～5/20 本選男子シングルス2
回戦敗退1名 男子ダブルス2回戦敗退1組

ソフトテニス部

- ▼第67回ソフトテニス選手権大会 4/22～4/23 男子ダブルス2回戦敗退1組
- ▼平成27年度春季東海学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦大会 5/12～5/14 男子団体2部リーグ
優勝(1部入替戦敗退)
- ▼第90回愛知学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦大会 5/27～5/29 男子団体2勝2敗(2部残留)
- ▼第65回会長杯争奪愛知学生ソフトテニス選手権大会 6/1～6/2 男子個人3回戦敗退吉安伸悟(4
年)・武山祐樹(2年)ペア

洋弓部

- ▼2015年度東海学生アーチェリー連盟王座出場校決定戦大会 3/22、4/5、
4/18～4/19 男子団体第4位
- ▼2015年度東海学生アーチェリー連盟選抜選手権大会 5/10 男子リカー
ブ部門優勝長澤宏平(3年) 女子リカーブ部門第29位浅野捺子(2年)
男子コンパウンド部門第2位長江優(2年)
- ▼2015年度東海学生アーチェリーフィールド選手権大会 6/7 男子個人第17位磯村昂志(2年)



洋弓部の長澤宏平選手

自動車部

- ▼2015DUダートトライアル 5/2 団体第3位
- ▼2015年度全中部学生ジムカーナ選手権大会 5/24 団体第2位

ヴァイオリン協奏曲で
独奏する角憲明君

管弦楽団が第18回定期演奏会 華麗な音色で聴衆魅了

愛知工業大学管弦楽団の第18回定期演奏会が9月6日、名古屋市の三井住友海上しらかわホールで開かれ、迫力ある演奏が約600人の聴衆を魅了しました。指揮者には、本学など東海地方の多くの演奏団体で指導、活躍する中村暢宏氏を迎え、今回は30歳代の若さで亡くなったF・メンデルスゾーンとG・ビゼーの2人を取り上げました。

初めにメンデルスゾーンから2曲を演奏、ヴァイオリン協奏曲ホ短調では本楽団コンサートマスターを務める角憲明君（機械学科3年）がソリストとしてヴァイオリンの華麗な音色を披露しました。続いて、交響曲第4番イ長調「イタリア」、最後にビゼーの「アルルの女」より第2組曲が演奏され、会場からは盛大な拍手が送られました。水野一平監督は「大変難しい曲への挑戦でしたが、学生たちはよく頑張って仕上げました。大きな達成感を感じたと思います」と称えていました。

来年の定期演奏会も9月18日に同じしらかわホールで開かれることが決まりました。

全日本大学駅伝にオープン参加

11月1日に熱田神宮から伊勢神宮までの8区間106.8キロで繰り広げられた秩父宮賜杯第47回全日本大学駅伝対校選手権大会で、大学陸上競技部の3選手が東海学連選抜チームのメンバーとして、エントリーされました。本学は7月5日にパロマ瑞穂スタジアムで行われた東海地区選考会では惜しくも2位に終わり、チームとしての本大会出場はなりませんでした。

唐澤研太選手（経営学科2年）が5区を走り36分26秒（22位）、吉田新規選手（同4年）が6区を走り38分09秒（19位）の区間成績でした。松井駿佑選手（同2年）は補欠でした。学連チーム

左から唐澤選手、
田選手、松井選手、
川瀬マネジャー

としては22位相当でした。また学連チームの監督は本学陸上競技部の奥野佳宏監督が、マネジャーは本学陸上競技部員の川瀬貴大君（建築学科3年）が務めました。

ゴルフの河合選手、東海クラシック出場 信夫杯10位

東海クラシックに出
場した河合和真選手

大学ゴルフ部の河合和真選手（経営学科1年）は10月1～4日、三好カントリークラブで開かれたプロゴルフトーナメントにアマチュアとして出場しました。結果は1日が78ストローク、2日が80ストロークで参加者108人中、99位。残念ながら予選突破はなりませんでした。

河合選手は「初日は雨、2日目は風の強い中でのプレー。同伴のプロ選手は終始手堅くまとめ、プロトーナメントでアマチュアである自分が通用するにはまだまだ大きな壁があることを改めて感じさせられました。今回は2日間で競技を終了し、悔しい思いで会場を去りましたが、来年も是非出場し最終日までプレーができるよう、精神面と技術向上を目指したいと思います。しかし、大会の雰囲気や多くの一般ギャラリーが観戦してくださる中でのプレーは何物にも代えがたい最高の経験でした」と振り返りました。

一方、10月29、30両日、千葉カントリークラブ梅郷コースで開かれた第59回信夫杯争奪日本大学対抗戦に本学も出場、12校中10位の成績でした。



信夫杯に出場したゴルフ部選手

これに先立つ27、28両日に行われた個人戦の第62回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権に出場した佐藤祐希選手（同3年）と河合選手はともに81位タイで決勝ラウンドへは進めませんでした。

ジャグリングサークル 初のパフォーマンス

2013年に発足した新しいサークル。今年の大学祭で初めて一般の人の前でパフォーマンスを披露しました。部長を務める鈴木喜陽君（経営学科2年）は中学生時代から取り組み、地域のイベントにも出演していました。「ジャグリングの楽しさをみんなに知ってもらいたい」とサークルを立ち上げ、現在のメンバーは18人。水、金曜日の授業後に剣道場を借りて練習しています。鈴木君は「初のパフォーマンスでしたが、よくできました」と練習の成果に納得した表情でした。



順位上げるフォーミュラ

藤村俊夫機械学科教授が指導する A I T 学生フォーミュラ研究会は今年も「第 13 回全日本学生フォーミュラ大会」に参加、エントリーした海外も含む 86 チーム中、総合で 24 位となり過去最高の好成績を収めました。

本学のフォーミュラへの取り組みは 4 年前から本格化、車の勉強をする学生たちが設計から車体組み立てまで手づくりで取り組んでいます。軽量化や低重心化など代々築いた技術を先輩から後輩へ引き継ぎ、改良を重ねて第 10 回大会の 54 位から毎年少しずつ順位を上げてきました。

ヤマハ発動機のスノーモービル用エンジンを搭載し、平均速度は時速 60 ㎞という基本性能はこれまでと変わりませんが、ことしは車体の色を赤から黒に一新したのが特徴です。大会に備えて学生たちは早朝からの走行練習で 130km 走り込み、課題を洗い出すとともにドライバーが車の癖を覚えて運転技量向上に努めてきました。

大会は 9 月 1 ～ 5 日、静岡県袋井市の総合運動公園エコパで開かれました。大会のコンセプトは走行性能だけでなく、デザイン、コスト管理、製造プロセスなども審査の対象。製作車両を企業に売り込むためのプレゼンテーションもあり自動車関連メーカーの技術者が総合的に審査します。本チームの場合、メインの 20 ㎞耐久走行と燃費を合わせた成績は 20 位と車体の完成度は高いのですが、プレゼンテーションなど静的審査面で準備不足もあり総合順位に影響したようです。

活躍を誓って氣勢を上げるAIT学生フォーミュラ研究会のメンバー



トピックス



疾走するAITフォーミュラカー

9 月 17 日には学内の機械工場の後藤泰之学長、櫛田玄一郎機械学科長に報告、藤村教授や学生の代表が車体を前に動画も使って説明しました。後藤学長は「目標を高く掲げてこれからも頑張ってください」と学生を激励しました。藤村教授は「車体のデザインをもう少し精悍に洗練し、エンジンの性能を最大限に引き出して来年は 10 位台に食い込みたい」と話しています。



人力飛行機同好会「一陣乃風」のメンバーが記念の集合写真

鳥人間コンテスト出場

人力飛行機同好会「一陣乃風」が、7 月 25 日・26 日に滋賀県琵琶湖で開催された「第 38 回鳥人間コンテスト 2015」(2015 JAPAN INTERNATIONAL BIRDMAN RALLY) に出場しました。

本学からの出場は、2007 年・2008 年に「人力プロペラ機 ディスタンス部門」、2012 年に「人力プロペラ機 タイムトライアル部門」での出場に続き 4 回目で、今回も「人力プロペラ機 タイムトライアル部門」で出場しました。



主翼を組み立てる学生たち

タイムトライアル部門とは、発進台から 150 m を過ぎたところから往復 1000 m の時間を競うもの。2012 年に出場した際には、約 650 m を飛行。折り返したところでバランスを崩し主翼が着水。帰着できなかったため公式記録にはなりません

大学野球部、入替戦出場ならず

大学野球部は愛知大学野球リーグの 1 部・2 部入替戦出場を懸けて、愛産大との 2 部プレーオフに臨みましたが、10 月 26 日パロマ瑞穂球場で行われた第 3 戦で逆転負けを喫し、1 勝 2 敗の戦績で 2 部優勝・入替戦出場はなりませんでした。

でしたが、この機体をベースにしながら、さまざまな工夫や改良を加えて新しい機体を製作し、安定的な推力を得られるようになりました。

5 月 23 日・24 日には、飛騨エアパーク(岐阜県)で学外飛行試験を実施、本番まで改良に取り組み、入賞を目指しましたが、及びませんでした。

プロジェクションマッピング

パイプオルガンと共演



大学のメディア情報研究会（情報科学科・鳥居一平教授）は9月2日、豊田市コンサートホールで開かれた「徳岡めぐみ パイプオルガンコンサート」でプロジェクションマッピングの映像を

披露し、コンサートに華を添えました。同研究会のプロジェクションマッピングを見たコンサートホール関係者が、その高い映像技術をイベントに活用できないかと鳥居教授に声をかけたのがきっかけで、異色のコラボレーションが実現しました。

コンサートは、パイプオルガンの演奏席が暗がりには浮かんでいるような幻想的な雰囲気の中、プロジェクションマッピングによる大きな火花がコンサートホール全体に打ちあがりスタート。曲の繊細さや力強さなどに合わせ、演奏とプロジェクションマッピングが見事に調和、イメージを膨らませ、会場は終始拍手に包まれました。

コンサートの最後で徳岡さんは「全く逆の方向を向いているように見える私たちが、『誰もが美しいと感じる世界』を作るために同じ方向を向いているということを実感できました」と共演を喜び、学生たちの労をねぎらっていました。

フェンシング部、各種大会で健闘

関西学生フェンシング選手権大会 団体・個人ともに準優勝
全3種目インカレ出場権を獲得

10月14日～18日、京都府大山崎町体育館で開催された「関西学生フェンシング選手権大会」においてフェンシング部が、サーブル団体の部で準優勝に、また、個人の部で越水裕亮選手（経営学科4年）がエペ準優勝、島田翔大選手（同1年）がサーブル準優勝になりました。この結果、団体はフルーレ、エペ、サーブルの全3種目とも11月9日～13日に駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館（東京都）で開催される「全日本学生フェンシング選手権大会（インカレ）」に出場が決定。個人戦でも越水選手をはじめ、8名がインカレへの出場権を獲得しました。

島田翔大選手 フェンシングジュニアワールドカップで7位入賞！

10月10日～11日、メキシコで開催された「2015 フェンシングジュニアワールドカップ メキシコ大会」に、フェンシング部の島田翔大選手がサーブルで出場し、見事7位に入賞しました。

関西学生フェンシング新人戦 全3種目で本学が優勝！

10月3日～4日、「関西学生フェンシング新人戦」が大山崎町体育館で開催され、フェンシング部の島田翔大選手がフルーレとサーブルで優勝、浦田尚吾選手（経営学科1年）がエペで優勝し、本学フェンシング部が全3種目を制覇しました。両選手とも今後の活躍が期待されます。

全日本学生フェンシング王座決定戦（エペ） 3位！

6月7日、「全日本学生フェンシング王座決定戦」が大山崎町体育館で行われ、フェンシング部が男子エペで接戦を制し、見事3位となりました。



サーブル団体の部で準優勝

野球部、フェンシング部創部五十年祝う
大学の硬式野球部とフェンシング部は創部から五十年を迎え、相次いで記念祝賀会を開きます。野球部は十一月二十一日、名古屋ガーデンプレスで、フェンシング部は十一月二十八日、ウエステインナゴヤキャッツスルで、それぞれ学園、大学関係者、OB、学生ら百人以上が参加して半世紀の歩みを振り返ります。



個人戦でペアが優勝したヨット部の選手ら

大学ヨット部ペアが優勝

6月27日・28日、豊田自動織機 海陽ヨットハーバー（愛知県蒲郡市）で「中部学生ヨット個人選手権」が開催され、国際470クラスにおいてヨット部の鈴木空選手（応用化学科2年）、石黒武志選手（電気学科1年）のペアが、強風のなか安定した走りを見せ優勝しました。この結果を受け、9月4日～6日に同所で行われる「全日本学生ヨット選手権」への切符を手に入れました。

「人生の大きな財産に」

名電高校部活動宣言



宣言文を読み上げる早川葵さん

宣言にあたって久保芳孝校長は「切磋琢磨しながら自らを高めることは社会に出てからも大きな財産となります。その意義はこれからも変わらないでしょう。部活動に入っていない人にとってもその精神は非常に重要です」と宣言の意味を強調。4項目のキーワード①誠実と勤勉の実践②社会や地域への貢献③目標の実現④感謝と謙虚一について説明しました。

この後、生徒を代表し、高校ではクラブ代表者会議議長の早川葵さん（3年、軟式野球部マネジャー）が、中高一貫コースでは久米春貴君（3年、フェンシング部部长）が宣言文を読み上げました。

今後、宣言文のほか各部の実践目標、具体的取組を高校ホームページに掲載し、部活動宣言を内外に明示していきます。

「誠実と勤勉の実践」など4項目からなる部活動宣言をした名電高校。学園創立以来、スポーツを通じて心身を鍛え、正しい生き方を学ぶためにスポーツが奨励され、部活動は学園の伝統となってきました。生徒の6～7割が参加し、名選手も数多く輩出してきました。



日進市民会館で開かれたサマーコンサート。華やかな演奏で聴衆を魅了しました

高校吹奏楽部 全日本で銀賞

高校吹奏楽部は11月1日に名古屋国際会議場で開かれた第63回全日本吹奏楽コンクール高校の部に出場、銀賞に輝きました。8月30日に津市で開かれた東海吹奏楽コンクールで金賞を獲得、東海支部代表として昨年に続き38回目の出場でした。自由曲は作曲家八木澤教司氏の「永劫の翼～ジョン・フレミングの法則～」を顧問の伊藤宏樹教諭の指揮でのびやかに演奏しました。

「永劫の翼」はフレミングの法則で知られる英国の電気技術者フレミングの生涯を描いた名電高校にふさわしい吹奏楽部の委嘱作品です。

一方、吹奏楽部のサマーコンサートは7月11日が日進市民会館大ホールで、15日が名古屋国際会議場白鳥センチュリーホールで、それぞれ開かれ、会場いっぱいの聴衆を酔わせました。プログラムは3部構成で、1部では全日本吹奏楽コンクールの課題曲3曲と「永劫の翼」を初めて披露しました。2部は日進会場と白鳥会場で内容が異なり、白鳥会場では音楽家の外園祥一郎氏による金管楽器ユーフォニウムのスペシャルステージがありました。3部では、いきものがかりのメドレーなどを楽しみました。



高校野球部 愛知大会準優勝

高校野球部は7月30日、パロマ瑞穂球場で行われた全国高校野球選手権愛知大会決勝で、中京大中京高校と対戦、3-4で惜しくも敗れ準優勝となりました＝写真。2年ぶりの夏の甲子園出場はなりませんでした。

試合は初回到4番の西脇雅弥主将（3年）が先制の3点本塁打を放ち、幸先良いスタートとなりましたが、追加点が取れず惜しくも逆転負けを喫しました。

高校フェンシング部、インターハイ個人入賞



川北信海選手

森皓己選手

高校フェンシング部は8月7～11日、奈良県桜井市で開かれた平成27年度全国高校総合体育大会フェンシング競技で、川北信海選手（3年）が男子個人エペで4位、森皓己選手（2年）が男子個人サーブルで6位にそれぞれ入賞しました。男子学校対抗は5位でした。

中国人留学生との交流も 高校の中国語研究部

高校の中国語研究部も中国人留学生と交流するなど日中友好に取り組んでいます。担当の安武正浩教諭に紹介文を寄せて頂きました。

× ×

中国語研究部は、2005年の愛知万博をきっかけとしてスタートしました。名電高校は、大学が交流している東南大学の附属高校、南京市第九中学と交流を始め、彼らを万博に招待しました。この時、中国語研究部の生徒（当時は同好会）が中心となって、中国人生徒のお世話をしています。

部活動では、中国語や中国文化を学ぶほか、年に二回開催される中国語発表会の練習を行っています。生徒は発表会で、中国語の課題文の朗読や暗唱をし、普段の学習成果を披露しています。また、中国人留学生との交流も行っています。今年の二月には岐阜県の日本語学校を訪問しました。

今後、学んだ中国語で、観光客に道案内をするような活動にも取り組んでいく予定です。



中国語で観光客に道案内もしたいと勉強に取り組む中国語研究部の生徒たち

卒業生の活躍

レーシングカート部OBが優勝

8月23日、フェスティカサーキット瑞浪（岐阜県瑞浪市）で第20回全日本学生カート選手権が開催され、本学から愛工大レーシングカート部とともに出場した同部OBの杉本大輔選手が、TIAクラスで優勝しました。



疾走するレーシングカート

た。

杉本選手は在学中、レーシングカート部に所属。2014年3月に機械学科を卒業し、現在はメーカーに勤務する傍ら、年に1～2度、後輩とともにレースに参加しています。

杉本選手は「レーシングカートは他の部活に比べて非常にお金のかかるスポーツ。だからこそ学生時代に『部活』というものを活かして、少しでも多くカートに乗ってレースに参加し、最高の結果を残せるように頑張ってもらいたい」と後輩たちに向けてエールを送りました。

角界入り 大司が三段目に昇進

名電高校相撲部出身で今春角界入りした大司航大（ひろつかさ・こうだい、入間川部屋）が九州場所から三段目に昇進しました。

名古屋場所中日の7月19日、名古屋市内のホテルで開かれた名電出身親方・力士を励ます会に元幕内・朝乃若こと若松、元幕内・武雄山こと山分の両親方、現役力士の幕下（当時）・駒木龍（木瀬部屋）とともに出席した大司が紹介され、約100人の参加者から盛んな拍手と激励を受けました。

大司は岡崎市立竜海中学校出身。今春同志社大学を卒業と同時に入門し、小兵ながら夢に向かって邁進、名古屋場所、九月場所ともに5勝2敗の成績



挨拶する大司

でした。先輩にあたる駒木龍は「2人がもっと上位で対決できるような切磋琢磨したい」と話していました。相撲部の澤田勉監督は「真摯に相撲に取り組んでいるOBにとって郷土の皆様の声援が最も励みになります」と話していました。

将棋の女流アマ日本一に

名電高校将棋部出身の遠山侑里さん（慶応大学1年）が9月13日、東京都内で行われた将棋の第47期女流アマ名人戦（日本将棋連盟主催）で初優勝、女



対局に臨む遠山侑里さん

流アマチュア日本一に輝きました。

連絡を受けた将棋部顧問の原野照久教諭によると、「力試しに」と初めて出場しましたが次々と実力者を破っての優勝で、遠山さん自身驚いていたようです。

慶大でも将棋部に所属していますが、女流棋士は目指さずに学生タイトルや女流アマタイトルに挑んでいく意向で、遠山さんは「もっと勉強してアマチュア界のナンバーワンと皆に認められるようになりたい。今後も、油断せず他のタイトルも狙っていきたい」と意欲を燃やしています。

中高 11 部活をクラブ表彰

学園はこの夏から秋にかけて全国大会に出場した高校 14 部活、中学 3 部活をクラブ表彰しました。表彰式は 7 月 18 日に若水北校舎 2 階で、10 月 2 日には北校舎校長室で行い、それぞれの大会での活躍を祈りました。後藤淳理事長が各部の顧問や主将に一声ずつかけながら激励を手渡し、励ましの挨拶をしました。クラブ活動後援会、高校 PTA、高校同窓会の代表らも同席し、激励しました。クラブ表彰された部活は次の通り。

◆高校◆

【平成 27 年度全国高等学校総合体育大会】

卓球部 団体個人 10 人 滋賀県立体育館 8.9～8.14

フェンシング部 団体個人 6 人 奈良県桜井市芝運動公園総合体育館 8.7～8.11

バレーボール部 団体 14 人 大阪市舞洲アリーナ 8.2～8.6

相撲部 団体個人 7 人 兵庫県洲本市文化体育館 7.28～7.30

自転車競技部 個人 1 人 ロード：三重県鈴鹿サーキット 8.6～8.10
トラック：大阪府岸和田競輪場

ウエイトリフティング部 団体個人 5 人 兵庫県明石中央体育館 8.1～8.5

(女子は全校高校女子ウエイトリフティング競技選手権大会 愛媛県立新居浜南高校 7.18～7.20)

陸上競技部(短距離) 個人 1 人 和歌山県紀三井寺公園陸上競技場 7.30～8.2

剣道部 個人 1 人 和歌山ビッグホエール 8.2～8.6

【JAPAN CUP 2015 チアリーディング日本選手権大会】

チアリーディング部 団体 16 人 東京都代々木第一体育館 8.29～8.30

【第 51 回全国高校将棋選手権大会】

将棋部 個人 3 人 滋賀県文化産業交流会館 7.28～7.29

【全日本吹奏楽部コンクール】

吹奏楽部 団体 55 人 名古屋国際会議場センチュリーホール 11.1

【平成 27 年度全国高等学校総合体育大会】

水泳競技部 個人 8 人 京都アクアリーナ(京都府) 8.17～8.20

【第 59 回全国高校学校ゴルフ選手権大会】

ゴルフ部 個人 1 人 宇部 72 カントリークラブ(山口県) 8.6～8.8

【JOC ジュニアオリンピックカップ・第 34 回全日本ジュニアバドミントン選手権大会】

バドミントン部 個人 2 人 埼玉県久喜市総合体育館 9.20～9.23

◆中学◆

【第 29 回全国男子中学生ウエイトリフティング競技選手権大会】

ウエイトリフティング部 個人 1 人 福井県立若狭東高校 8.18～8.19

【第 1 回全国中学生フェンシング選手権大会】

フェンシング部 団体個人 5 人 東京都駒沢オリンピック公園 7.18～7.20

【全国中学校総合体育大会】

卓球部 団体個人 8 人 セキスイハイムスーパーアリーナ(宮城県) 8.21～8.24



7月18日のクラブ表彰での記念撮影



10月2日のクラブ表彰での記念撮影

クラブ表彰を受ける吹奏楽部の伊藤宏樹教諭ら



愛知県旗を受ける長谷川選手

長谷川選手が国体で旗手 第 70 回国民体育大会(和歌山県、9 月 26 日～10 月 6 日)総合開会式で高校相撲部の長谷川聖記選手(2 年)が愛知県選手団の旗手を務めました。9 月 17 日に愛知県体育館で行われた選手団結成式で愛知県旗を手渡されました。昨年の 69 回大会の旗手は、大学男子卓球部の吉村真晴選手が選出されました。今年は愛知県教育委員会より、相撲少年選手から旗手を選出してほしいとの依頼があり、愛知県相撲連盟から推薦されました。澤田勉先生によると高校生旗手としては本校初のようなようです。